

R5 年度 あい愛バス年間利用実績の検証と考察

R6. 5. 17 作成

●全般

○令和 4 年 8 年のダイヤ改正後初めて 1 年を通しての利用実績が集計された。「中部国際医療センター」のバス停留所新設や、古井駅ー可児川駅線の乗り継ぎやすさを改善した結果が実を結び、利用者数が大きく伸びた。

○令和 5 年度中に実施した各種利用促進対策（市内 3 団体への出前講座、あい愛バスに親しむ日実施、ワクチン接種利用無料回数券配布、市民まつりでの PR、加茂高生企画による「あい愛バスポイントカード」）により、利用への関心を高めたことや動機付けをしたことが効果となり、利用が高まっている。

●路線関連（資料 3-2 参照）

○「古井駅ー可児川駅線」は、広域路線バスとして、可児市と美濃加茂市、また、市内の 3 高校を結ぶ路線として、主に朝の通学に非常に多くの学生が利用するなど、前年度と同様に、最も利用される路線（R5 実績：24,827 人／年、R4 実績：22,330 人／年）となっている。

○「あまちの森・しょうよう線」は、沿線地域の人口の多さや、生活路線として、主に通勤、通学、買物などに利用する方が多く、前年度と同様に、2 番目に多く利用される路線（R5 実績：22,481 人／年、R4 実績：19,148 人／年）となっている。

○「まちなかぐるっと線」は、主に商業施設や公共施設へ行くために利用されており、3 番目に多く利用される路線（R5 実績：18,414 人／年、R4 実績：18,361 人／年）となっている。

●バス停利用状況関連（資料 3-2 参照）

○利用の多い少ないはあるが、全バス停において、乗車または降車があり、適切な配置である。なお、利用がわずかなバス停もあるが、運行経路上、通過する地点への配置であるため、現状としては、廃止する必要はない。

○乗降者数の多いバス停の上位 10 ヶ所は、以下のとおりとなっている。

- 1 位 「美濃太田駅北口」 乗降者数 72,084 人
- 2 位 「美濃太田駅南口」 乗降者数 34,738 人
- 3 位 「美濃加茂高校」 乗降者数 12,272 人
- 4 位 「中部国際医療センター」 乗降者数 11,517 人
- 5 位 「駅北商業団地」 乗降者数 10,772 人
- 6 位 「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」 乗降者数 6,094 人
- 7 位 「総合福祉会館」 乗降者数 4,798 人
- 8 位 「八坂」 乗降者数 3,951 人
- 9 位 「ぎふ清流里山公園」 乗降者数 3,740 人
- 10 位 「美濃加茂高校グラウンド」 乗降者数 3,441 人

乗り換えの拠点である「駅」が最も利用されている他、通学や買物で利用されるバス停の利用が上位となっている。また、中部国際医療センターへの通院で利用される方が大幅に増加している。

○「美濃太田駅(北口及び南口)」バス停は、乗降者数が最も多く(R元年度比:145.99%、33,651人増加)、全体利用の約37.77%を占め、各種公共交通への乗り換えの拠点として、重要な役割を果たしている。

○「名鉄可児川駅」「古井駅」バス停の利用も多く(2バス停合計でR元年度比:163.35%、2,403人増加)、通勤・通学のための拠点として、重要な役割を果たしている。R4年度と比べても、123.92%(1,196人)増加しており、広く認知されてきております。

○「美濃加茂高校」「美濃加茂高校グラウンド」バス停の他「加茂高校北」「加茂農林高校」「加茂高校」バス停は、多くの学生に利用され、全体的に利用が増えており(5バス停合計でR元年度比:135.72%、5,070人増加)、通学に有効的に利用される拠点として、より定着してきている。

○「駅北商業団地」「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」「八坂」「食品スーパーアルビス」「オークワ坂祝店」バス停は、利用が多く(5バス停合計でR元年度比:144.14%、7,890人増加)、市民生活に必要な買物の拠点として利用されている。

○「ぎふ清流里山公園」バス停は、コロナ禍による外出自粛やイベント中止により、R3年度までは利用が減っていましたが回復傾向にあり(R元年度比:134.19%、953人増加)、今後のイベント開催に期待するとともに、利用を促す取組に努める必要がある。

○「総合福祉会館」バス停は、これまで、バス停全体の利用順位の中で10位以内となるなど多くの方に利用されてきたが、コロナ禍による休館や施設の利用制限により、令和2年度以降は、利用が減っている(R元年度比:81.68%、1,076人減少)。施設が日常的に利用可能となり、利用も回復傾向にあるが、状況把握や開館情報の発信に努める必要がある。

○令和4年8月のダイヤ改正により、さとやま線及びほたる線から「中部国際医療センター」のバス停を新たに経由できることになったため、R4年度と比べ3,130人利用者が増加しました。令和4年8月のダイヤ改正による利便性向上の効果が大きく現れている。

●ダイヤ関連(資料3-3参照)

○路線全体の便ごとの利用状況は、2便の利用が最も多く、次に1便、3便の順に少なくなっており、主に早朝の外出によく利用されている。

○目的地別では、以下のような利用となっている。

①「まちなかぐるっと線」

・3便(午前10時24分～午前11時32分の運行)の利用が最も多いが、2便(午前～6便も満遍なく利用されている。

・1便では「弥生」、2便以降は「総合福祉会館」や「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」、「美濃加茂市役所」での降車が多い。主に通勤・通学や商業施設、公共施設へ行くために利用されている。

②「3公園連絡線」

・1便（午前7時33分～午前8時33分）及び2便（午前9時8分～午前10時32分）の利用が最も多く、「中部国際医療センター」バス停での降車が最も多いことから、主に通院に利用されている。

・3便（午前10時48分～午後12時12分）及び4便（午後1時11分～午後2時35分）では「ぎふ清流里山公園」での降車が多く、公園へ行くために利用されている。

③「あまちの森・しょうよう線」

・1便（午前6時3分～午前7時20分の運行）及び2便（午前7時35分～午前8時58分の運行）は、「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に通勤、通学、買い物、通院をするために利用されている。

・3便（午前9時24分～午前10時35分の運行）は最も利用があり「美濃太田駅（南口）」以外では「オークワ坂祝店」バス停での降車が多く、地域の方の日常生活を支えています。

④「むくの木・そうきち線」

・1便（午前6時11分～午前7時20分の運行）は、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に通勤や通学するために利用されている。

・2便（午前7時41分～午前8時55分の運行）は最も利用があり、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤や通学その他、買い物や通院するために利用されている。

⑤「フルーツ山之上線」

・1便（午前6時38分～午前7時20分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に通勤や通学するために利用されている。

・2便（概ね午前7時40分～午前8時22分の運行）は最も利用があり、「美濃加茂高校グラウンド」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスから乗り継ぎ、通学するために利用されている。

・3便（午前9時50分～午前10時35分の運行）は、「駅北商業団地」バス停での降車が最も多く、山之上方面からは直接、また、美濃太田駅方面からは、鉄道や他のあい愛バスから乗り換え、買い物に行くために利用されている。

⑥「フルーツ蜂屋線」

・1便（午前6時38分～午前7時20分の運行）は最も利用があり、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に通勤や通学するために利用されている。

・2便（概ね午前8時15分～午前8時58分の運行）は1便に次いで利用があり、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤や通学の他、買物や通院するために利用されている。

⑦「さとやま線」

・1便（午前6時14分～午前7時20分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤や通学するために利用されている。

・2便（午前7時39分～午前8時55分の運行）は最も利用があり、「美濃太田駅（北口）」と「のぞみの丘ホスピタル」バス停での降車が多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤や通学のほか通院のためにも利用されている。

・3便（午前9時15分～午前10時35分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」、「駅北商業団地」や「中部国際医療センター」バス停での降車が多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に買物や通院するために利用されている。

⑧「ほたる線」

・1便（午前6時17分～午前7時20分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に通勤や通学するために利用されている。

・2便（午前7時38分～午前8時53分の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤や通学の他、買物や通院するために利用されている。

・3便（概ね午前9時20分～午前10時40分の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、次いで「駅北商業団地」や「中部国際医療センター」バス停での降車も多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に買物や通院するために利用されている。

・7便（午後4時27分～午後5時45分）が最も多く利用があるが、「中部国際医療センター」での乗車が多く、「美濃太田駅（北口）」での降車が多いことから、帰宅手段として利用されている。

⑨「古井駅－可児川駅線」

・1便（午前6時58分～午前8時21分の運行）は、主に「美濃加茂高校」の他、通学用に設置したバス停での降車が多く、市外の名鉄可児川駅方面からは直接、また、駅で鉄道や他のあい愛バスから乗り継ぎ、主に通学するために利用されている。

・2便（午前8時36分～午前9時44分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、通勤の他、買物や通院するために利用されている。また、市外の名鉄可児川駅方面からも、市内へ訪れるために、この路線で当駅まで利用されている。

・3便（午前10時01分～午前10時35分の運行）は、「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に買物や通院するために利用されている。

○全 9 路線の最終便（概ね午後 6 時 14 分～午後 7 時 35 分、※3 公園連絡線は、午後 8 時 10 分～午後 9 時 10 分の運行）となる 8 便の利用は、全体で一番低い（古井駅－可児川駅線の 9 便を除く。）が、令和元年度と比べ、1 日あたりの全路線平均利用者が、1.59 人から 2.43 人とおよそ 1.5 倍の増加となっており、利用がより定着してきている。

●利用種別関連（資料 3-4）

○利用種別のうち、「有料」での利用が、65.61%、「無料」での利用が、34.39%となっており、この割合は、令和元年度以降「無料」での利用の割合が微増しており、「無料」で利用できる「中学生以下」「障がい者やその介護者」「65 歳以上の運転免許証自主返納者」の皆さんの利用も定着している。

○「現金」での利用が最も多く、全体の 38.08%となっている。次に「無料（障がい者・介護者）」での利用が、16.60%、続いて「定期券」での利用が、15.79%の順になっている。定期券での利用も多いことから、日常的な外出（通勤、通学、買物、通院など）に利用されている。

○幼児を除き、路線バスを「無料」で利用できる制度は、他自治体でも少なく、対象となる「中学生以下」「障がい者やその介護者」「65 歳以上の運転免許証自主返納者」に定着するとともに、特に「免許返納者」に対しては、市や警察による制度の PR により、利用が次第に増えている。

・「障がい者やその介護者」は、増加傾向（R 元年度比：151%、7,928 人増加）で、利用がさらに定着している。

・「65 歳以上の運転免許証自主返納者」は、増加傾向（R 元年度比：197.12%、6,364 人増加）で、利用がさらに定着している。

・「中学生以下」は、増加（R 元年度比：120.70%、4,053 人増加）となっており、無料で乗車できることが地域に浸透し、利用が増えていることや、外国籍児童が日本語教室への通学に専用バスを利用しているが専用バスの運行では対応できない児童の利用が増えたことが考えられ、令和 4 年度に比べると増加（R4 年度比：149.48%、4,053 人増加）している。

○美濃加茂市の運転免許証自主返納者は、平成 29 年度以降、毎年 150 人前後となっており、令和 4 年度末では、累計で 902 人となり、今後も自主返納者が増加することが見込まれるため、一層、あい愛バスの必要性が高まる。このため、利用 PR も兼ねた、返納前から乗車体験していただくなど、バス利用への不安や苦手意識を和らげるよう努めることが重要となる。

●利用者などの声

○アンケート（R5.11 月実施）結果抜粋

- ・直接目的地へ行ける循環型のバス路線があると良い。
- ・コースの数を増やして美濃太田駅までの時間を短縮してほしい。通勤通学に使い

づらい。

・蜂屋の工場団地への通勤にマイカーを使用している方が多く、市内の道路混雑にも繋がっている現状を、企業と連携を取り、あい愛バス路線を敷いて利益に繋がれたら良いのではないかと思います。

・日本ライン今渡駅まで向かうバスを作る又は新しく停留所として増やして欲しい。

・通勤・通学時間帯の本数をもっと増やして欲しい(朝の早い時間、夕方遅い時間)

・市民の要望を出来るだけ聞いた形で乗り合いを始めてほしい。

・あい愛バスは路線によって朝から晩まで無人で走らせるのは本当に無駄なので予約制の乗合型バスの導入はとても好印象です。

・支払い方を現金・PayPayのみではなく、交通系 IC カードを可能にして頂けるとありがたいです。

・時間が遅れている場合、公式 LINE から何分ほど送れているかを知れるようにして欲しいです。

・お寺巡りコース、スイーツ巡りコース、ランチコースなど、モデルコースがあると休日に出掛けることが出来そう

●総括

○あい愛バスは、年々利用が高まる中、特に早朝の日常的な外出(通勤、通学、買物、通院など)での利用が定着してきており、午前の利用が、午後からの利用を上回り、全体の約 58%となっている。

これは、通勤や通学、または、通院において求められる、始業や診療開始時間に間に合う公共交通であること、特に通学可能であることに対して、これを実現するとともに、継続的に利用しやすいダイヤへの見直しや環境整備(利用者増加による定員超過の事態に対応したバスの大型化、予備車追走など)を進めてきたことで、安心して利用できる環境が整ってきたこと、また、利便性向上につれ、もともと利用していた方がより利用し始めたことで、さらに多くの方が利用し始めたことが大きな要因である。

また、利用しやすいように定期的にダイヤの見直しを行ったことや先進的なシステム(バスロケーションシステム、キャッシュレス決済、モバイルチケットなど)EVバスの導入により、さらにバス利用への関心や利便性を高めることにも努めており、実績やニーズ、課題を踏まえ、利便性向上を図ってきたことも要因である。

令和 5 年度は、年間利用者数の計画目標 116,000 人に対し、141,411 人(目標達成率 121%)の利用があり、これまでの取り組みの成果が表れ目標を上回る結果となった。今後、今以上の勢いで利用者が伸び続けることは厳しいと推測されるため、現状のサービスや利用者を維持しつつ、ニーズや課題を踏まえ、費用対効果にも配慮し、さらなる利用促進(イベントでのPR、外国人利用者を増やす取り組み)や利便性向上(定時定路線の見直し及びAIデマンドシステム)に努め、令和 8 年度の計画目標である年間利用者 124,000 人の達成を維持できるよう取り組みたい。